

相模國 天應山 神保寺 千手院
本堂落慶 入佛開眼 慶讚之文

謹み敬つて真言教主大日如来 両部界会 諸尊聖衆
殊に別ては本尊聖者千手觀世音菩薩 並びに地藏菩薩
不動明王 閻魔十王 高祖弘法大師 総じては盡空法
界一切三宝の境界に白して言さく

夫れ塔堂は仏心莊嚴の顕れ 伽藍は菩提涅槃の方便
なり 本尊これによつてその威光を倍增し 衆生これ
を仰いで信心を確信す 故に高祖弘法大師は 觀法を
修するを以て仏道修行の旨となし 仏塔を建て仏像を
造るを以て護持信仰の要となすと 全ての理はこの如
くなりて他は無し 更に三世に亘り十方に広がる曼荼
羅の相はこの福智を営んで圓滿なり

本日ここに本堂落慶を迎える当山は 慶長年間の頃
より 小和田村熊野神社参道正面に位置し 興廢と無
住の時期を乗り越え 護寺会檀信徒の支え有つて伽藍
安穩するも 関東大震災により塔堂伽藍は倒壊し 國
の盛衰を他所に質素儉約を元とし 本堂再建の機運と
はただただ遊離するばかりなりと

然るに平成十四年現住職晋山に到り 護寺会世話人
一同の切望により 遂に本堂建設の志を新たにし 先
ずは弘法大師尊像修復より発願 次いで伊藤平左工門
建築事務所十三第当主とのご縁により 基本設計から
管理までを委託す 更には木工芸師 桜井洋師により
本尊千手觀世音菩薩像修復と 漆工芸師 辻賢三師に
より閻魔十王像の修復へと前進するなり

いよいよ期の熟する中 宮大工 井上俊仁棟梁と出
会い 宿縁により誓願の満を観じ ますます如意圓滿
し数多の匠を結集し 高野山御影堂を手本とし 奥の
院ご靈木ご拝領の栄に浴し 湘南の地に中世の様式美
を再現するに到るなり

これによつて建設委員会役員の永年の苦勞は報われ
護寺会檀信徒の心は晴れ渡り 実修者各位の求道の念
はますます清廉なりと

本日ここに吉辰の卜して 本堂の落慶入佛開眼法会
に際し ご参集の諸大徳 特には相模一二組施餓鬼門
中のご住職様方により 明音は響き渡り法味は蔓延す
誠に善哉善哉 感涙の衆生 有り難きは出会い 得が
たきは和を以て集まりし良きところなり

仰ぎ請い願わくば本尊聖者千手觀世音菩薩 衆生が
丹誠を哀愍納受せられ ころの置き所を開示し 我
らが正道を歩まんが為の加持力を授け給え

乃至法界平等利益

オンバザラタラマキリク

南無大師遍照金剛

維持平成二十三年八月十日

高野山真言宗 天應山神保寺

千手院 修詮敬白